

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 6月号

2014年6月2日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：新城 美香子（小禄病院）

第 62 回公益社団法人日本医療社会福祉協会全国大会参加報告

2014 年度研修講師の為にセミナー参加報告

大浜第一病院 當銘由香

平成 26 年 5 月 23 日（金）～24 日（土）まで茨城県日立市にて開催されました日本医療社会協会全国大会へ参加してきました。

「もう一度見つめよう私たちの存在～いのち（生命・生活・人生）に寄り添うソーシャルワーカー～」という大会テーマの下、2 日間に渡り様々な講演やワークショップ、分科会が行われ、どれも現在の MSW の立ち位置を考えられるものでした。

初日の基調講演では、ルポライターで映画「遺体 あすへの十日間」の原作者でもある石井光太氏の「命とのあたたかい触れ合い方～東日本大震災の遺体安置所から考える～」を聴き、東日本大震災当時の報道では見えない被災者、家族と支援者の心理の葛藤など私の想像を絶する状況を目の当たりにする機会となりました。私たち SW は人々が疾病や障害、災害などによって人生の岐路に立たされたパワーレスな状態のクライアントと出会い、その人がその人らしく生活が継続できるよう権利を守りながら援助を行っていく支援者であること、SW としてのアイデンティティを持つ重要性を再確認することができました。

午後の記念講演では、一橋大学大学院教授の猪飼周平氏の「地域包括ケアの時代のソーシャルワークの重要性」を聴講。いまなぜ「地域包括ケア」なのかということを経験からひも解いて分かりやすく解説。“患者を治すこと”を第一としていた医学モデルから“患者のQOLの改善”を目指す生活モデルの時代へ医療現場が変化していく中で、私たち MSW の役割が重要となっていることを痛感しました。

2 日目は、午前中に ISTT 企画のワークショップへ参加。そもそも ISTT はソーシャルワーク実践でよく知られている自我心理学、精神力動理論、危機理論、認知行動理論および生態システム理論から導きだされたもので、理論枠組みは、多種多様なクライアントの問題や特定

CONTENTS

第 62 回公益社団法人日本医療社会福祉協会全国大会報告	1～2
5 月定例会報告	2～3
MSW 協会定例総会議事録	4
新会員紹介	5
めだかの学校議事録	6
理事会議事録	7
定例会、めだかの学校等のお知らせ	8
コラム・編集後記	9

の人々など広範囲に適用可能なものとして、ソーシャルワーク援助の質を向上するための試みとして始まったと言われている。「クライアントを生物学・心理学・社会的な視点を持って理解する」人間として、社会人として生きていくことを支援する方法論であり、そういう視点をまず持つことが重要であるということ事例を通して学びました。

1日目の夜は交流会へ参加。沖縄を離れ地元でMSWとして奮闘している吉見さん（元勝連病院）や昨年の宿泊研修でお世話になった松山先生（立教大学教授）、その前の研修でお世話になった小原先生（東海大学教授）など、多くの仲間と再開することが出来ました。

今回会場となった茨城県日立市は、東日本大震災の被災地でもあり、現在は福島からの移住者を多く受け入れている街でもあります。道路は広くきれいに舗装され、海沿いの駅や店舗も立派な建物ばかりでしたが、会場内に展示されていた当時の写真を見ると、今の街の姿からはとても想像が出来ない状況であったことが分かり、この地で開催された大会の意義とそこに参加できたことに感謝します。

大会翌日、同会場にて開催された研修講師のためのセミナーにも参加してきました。

日本社会事業大学の贄川伸幸氏を講師に迎え、受講者のニーズに即したワーカー研修プログラムの組み立て方、効率的な研修に向けたプログラム評価の理論・方法の活用についてグループワークを行いました。

プログラム評価と理論構成、教育研修プログラムの効果測定に至るまでの一連の計画を体験。眠らない・眠らせない研修、対象とする方が多く参加する研修内容にするためにはまずニーズ評価（問題の明確化と現状分析）をきちんと行い、最適な方法の洗い出しにて研修目標と具体的内容をシラバスという形できちんと設計することの重要性、研修終了後のアウトカム評価まで行い、目標達成度を測っていく。研修と言っても単にやればよいということではなく、研修当日に至るまでの準備等について学ぶことが出来ました。

沖縄県MSW協会の研修でも多くの会員が参加したいと思えるような研修プログラムが組んでいける様、今回の研修を活かしていきたいと思えます。

来年の全国大会は平成27年5月28日（木）～30日（土）まで京都にて開催されます。全国のMSWとの出会いや再会、全国の動向や新しい学びなど、参加することで得られることが沢山ありますので、興味のある方は、是非参加してみてください。



H26年5月定例会報告

中頭病院 新垣 美鈴

去った5月14日（水）にちゅうざん病院にて定例会及び総会が開かれました。

前半には琉球大学付属病院金城隆展氏より「楽しく学ぶ臨床倫理～立ち止まり物語る倫理のススメ～」と題して講演がありました。

臨床倫理という言葉は知っていましたが、つまり何のことなのかと問われるとなかなか答えることができない分野でした。皆さんはどのようなイメージを持っておられるでしょうか？県立中部病院の木村

先生の言葉でこのように紹介されていました。「倫理と聞くと、品行方正とか清く正しくとかいうイメージがあるかもしれませんが。何か正しいと思われることをきちんと行うこと＝倫理 ではなく、現実の出来事をどう行えばいいのかを振り返りつつ、次の行動を模索するのが倫理的な態度と考えます。」このように言われるとなんとなくイメージがついたような気がしました。私たち専門職は専門家になることで立ち止まり考えることがしにくくなる性質を持っているようです。そのため、立ち止まるべき時に立ち止まるために専門職倫理が必要だということでした。

このことは、続いて行われたパネルディスカッション式のワークショップでもっとわかりやすくなりました。会場から数人の代表者が模擬倫理委員会の委員として討論を行う形式でした。委員の皆さんには金城氏からそれぞれ別々の情報を提供され、ある患者様の療養について話し合うという形で行われました。お題は「意識障害のある経鼻経管栄養を行っている患者様の経鼻経管栄養をやめるかどうか」。ちなみに家族はいない設定だったと思います。独居で、猫屋敷に住み、屋敷内には猫の死骸も散在している状況で地域包括支援センターが介入。施設入所後に発病し意識障害をきたした患者様。このテーマを話し合うために、委員の皆さんが、本来のこの方がどのような生活を行いどのような価値観を持って生きてきたのか、情報収集を行いながら本人にとって最適な選択とは何かを話し合うという形でした。委員に選ばれた皆さんはさすがはMSWといった様子で闊達に意見交換を行い、最終的には経鼻経管栄養については答えが出ず、それ以外の療養の方法として本人が唯一心を許した猫とふれあえる環境を作れないだろうかという意見でまとまりました。実際、のケースは、猫とふれあえる環境をセッティングすることで本人の意識レベルが徐々に向上し本人と相談できるようになったようです。

このワークショップを通して学んだことは、患者にかかわる関わる選択を行うとき、どのようなプロセスを経てその選択を行ったのかが大事ということでした。臨床倫理の視点から選択するとき、以下の4つの視点で考えてみるそうです。

- ① 自立性の尊重…本人の意思が尊重されているか。
- ② 善行…患者や家族の益になることが前提である。
- ③ 無危害…不利益は避ける。
- ④ 正義…貴重な資源を平等に分配する。

そして、さらに以下の4つの事を覚えておいてほしいそうです。

- ① 自分の道徳は不完全
- ② 独断一独善に陥らないように気をつける
- ③ 1人で決めない、1度に決めない
- ④ みんなで決める機会・プロセスが大切

ここまでできたら大丈夫じゃないでしょうか。臨床倫理「立ち止まって悩むこと」は面倒くさい（金城氏談）けど大事なことなのですね。

私も多忙を言い訳に突っ走ってしまったケースに申し訳なく思いつつ、これからは立ち止まることを意識しようと思いました。



一般社団法人
 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会
 平成 26 年度 定時社員総会

議事録

日時 場所	平成 26 年 5 月 14 日 (水) 15 : 45～ ちゅうぞん病院 5 階会議室
資格審査	直接参加 30 名、委任状 65 名 計 95 名／総会員数 112 名 ⇒総会成立
総会役員	議 長：新垣 哲治 副議長：安慶名 真樹 書 記；高澤 信哉 議事録署名人：松田 聡子、新垣 美鈴
第 1 号議案	平成 25 年度事業報告 報告者：研修部 比嘉 亜希子 広報部 平川 裕太 社会活動部 秦 克之 ⇒第 1 号議案 承認
第 2 号議案	平成 25 年度決算報告及び監査報告 報告者：事務局長 當銘 由香 ⇒第 2 号議案 承認
第 3 号議案	平成 26 年度事業計画案 報告者：総括 樋口 美智子 研修部 比嘉 亜希子 広報部 平川 裕太 社会活動部 秦 克之 ⇒第 3 号議案 承認
第 4 号議案 質疑	平成 26 年度予算案 報告者：當銘 由香 ◇ 広報活動費の内のホームページ管理費に、会員会費による収入の 1/4 にあたる 17 万円の予算を組んでいるので、予算を有効活用してほしい。 >>今年度から広報部にホームページ編集委員を設置して、活動を強化していく。 ⇒第 4 号議案 承認
第 5 号議案	費用弁償に関する規定の一部変更について 報告者：事務局長 當銘 由香 ⇒第 5 号議案 承認
第 6 号議案	平成 26 年度役員案 報告者：事務局長 當銘 由香

質疑	<p>◇ 「福祉の窓」編集委員会が前年度の6名から3名に減員した理由は？ >>前年度は役員6名の内、実質2名しか動けていなかったため、今年度は密に動いていけるよう3名の配置とした。</p> <p style="text-align: right;">⇒第6号議案 承認</p>
----	---



議事録作成： 高澤 信哉

議事録署名人： 松田 聡子

新垣 美鈴

新会員紹介

はじめまして、那覇市樋川にあります脳外科クリニック くだにて、医療事務兼相談員の**金城 みどり**です。

当院は、かかりつけ医制度により、多くの病院より患者様をご紹介いただいております。

患者様の中には、公費制度を活用する方々もあり、新規申請や更新説明、医療費など患者様からの疑問・質問に対応させていただいておりますが、近年、高齢化が進み当院でも、介護保険制度の説明をすることが増えており、認知症問題で不安を抱えるご家族の相談が多く傾聴していると、各医療機関・福祉関係機関などとの連携が必要であると実感し、沖縄県医療ソーシャルワーカー協会に入会いたしました。

協会の先輩方からいろいろと学ぶことで知識を増やし、患者様やご家族の不安が少しでも軽減できるよう頑張りたいと考えておりますのでご助言・ご指導の程よろしくお願いたします。



めだかの学校 議事録

文責：ハートライフ病院 桑江幸子

日時：5/29(木) 19:00~20:30

場所：ハートライフ病院 2階講堂

出席者：比嘉亜希子（沖縄メディカル病院）、池間俊・満名祐子（与那原中央病院）、安慶名真樹・新川尚悟（大浜第二病院）、香村真範（北中城若松病院）、高澤信哉（沖縄セントラル病院）、阿嘉禎貴・糸数靖子・照屋由梨香（中部徳洲会病院）、望月祥子・西田悠希子・川満慎吾・桑江幸子（ハートライフ病院）

1. 内容

*めだかの学校のリーダーについて

南部、中北部から1名ずつ決まっていたが、もう1名ずつ選ぶことになり、下記決定となった。

南部：満名祐子（与那原中央病院）、新川尚悟（大浜第二病院）

中北部：桑江幸子（ハートライフ病院）、與儀篤（中部徳洲会病院）

*リーダー業務

①事務局へ3年未満の会員を確認し名簿作成を行い、連絡網を作成。

②勉強会の講師依頼、場所・日時調整を行なう。

③次回の勉強会前に企画書、勉強会終了後に報告書を作成し、原本をハートライフ病院望月へ提出。

④議事録をメンバーへ依頼する。

*今後の勉強会内容

毎月第2火曜日開催予定。

	内容／講師	担当者
6月	急性期病院におけるMSWの役割／當銘由香（大浜第一病院）	桑江
7月	事例検討（事例提供者：満名祐子）	満名
8月	地域包括ケア・療養病棟におけるMSWの役割／新垣哲治（中部協同病院）	與儀
9月	年金制度について／池間俊（与那原中央病院）	新川
10月	回復期リハビリ病棟におけるMSWの役割／安慶名真樹（大浜第二病院）	桑江
11月	特定機能病院におけるMSWの役割／石郷岡美穂（琉球大学医学部附属病院）	満名
12月	苦情対応／古見寛子（大浜第二病院）	與儀
1月	初任者研修 1/18(日)、25(日)	香村
2月	老人保健施設・特別養護老人ホームについて／伊禮智則（那覇市立病院）	新川
3月	事例検討（事例提供者：初任者研修で提出した事例から選出）	桑江

2. 次回の案内

6月10日(火) 19:00~ ハートライフクリニック 2階会議室（ハートライフ病院の向かい）

平成26年5月理事会議事録

参加者：新垣、新城、安慶名、石郷岡、當銘、望月、比嘉、島袋、伊禮（記録）

研修部

◆6月定例会

平成26年6月11日（水）14:00～17:00

① 事例検討

事例 親川尚貴氏（介護老人保健施設池田苑）

バイザー 新垣哲治氏（中部協同病院）

② 各部専門部会ミーティング

③ その他

◆めだかの放課後

平成26年6月16日（月）19:00～20:30

場所：中頭病院2階会議室

◆沖縄県ソーシャルワーカー協会 研修会

テーマ：スーパービジョン～実習生・部下を育てることは、自分も組織も育つこと

講師：竹沢昌子氏（名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科准教授）

日時：7月12日（土）14:00～16:00

◆健康県民フェア

平成26年8月17日（日）

場所：コンベンションセンター

広報部

◆担当：新城氏（小禄病院）

社会活動部

・県民健康フェア

→パネル Q&A を取り入れた住民参加型を検討中。



事務局

・新入会員 3名 的野氏（琉大）、島袋氏（ちゅうざん）、儀保氏（ちゅうざん）

・移動 1名

・平成26年度沖縄県医師会在宅医療に関する県民公開講座

日時：平成26年7月6日（日）13:00～16:00

場所：ロワジールホテル那覇

・5月24日 日本協会全国大会 當銘氏参加

>平成26年度から「災害ソーシャルワーク研修」が開催される

>スーパーバイザー要請認定研修の案内

>退院支援ルール→九州各県認知されていない

>第24回 日本医療社会福祉学会大会

日時：平成26年9月6日（土）7日（日）

場所：神戸学院大学ポートアイランドキャンパス

テーマ：意思決定におけるソーシャルワークの射程

・MSW 運絵会議を第4（月）18：30～20：00 に変更する

※11月17日、12月22日、3月23日に開催

次回理事会：6月30日（月）18：30～ 司会：樋口 書記：島袋 連絡係：新城

6月定例会

日時：平成26年6月11日（水）14：00～17：00

場所：おもととよみの杜 2階 ふれあいホール（豊見城市渡嘉敷150）

内容：①事例検討

事例発表者：親川 尚貴氏（介護老人保健施設池田苑）

バイザー：新垣 哲治氏（中部協同病院）

②各専門部会ミーティング

③その他

めだかの学校

日時：平成26年6月10日（火）19：00～20：30

場所：ハートライフクリニック 2階会議室（西原町掛保久288）

ハートライフ病院向かい、アルテックの隣

駐車場は建物の前に沢山あります

内容：①急性期病院におけるMSWの役割

講師：當銘 由香氏（大浜第一病院）

②その他

めだかの放課後

日時：平成26年6月16日（月）19：00～20：30

場所：中頭病院 2階 会議室（沖縄市知花6丁目25番5号）

内容：①各ワーキンググループ内容検討

②その他



コラム ●ある日の相談室●

担当：A・T

●「いいところでしょう。」・・・

90代後半、胃がん末期のIさんは独居で寝たきり。難聴でコミュニケーションは筆談。食事が摂れないため24時間高カロリー輸液をしていました。

当初は誰もが「自宅は厳しいかも・・・」と考えていたのではないのでしょうか・・・正直のところMSWの私もそうでした。しかしIさんは日々「家がいい！」と力を振り絞って訴えていました。

そこで、まずは外出をトライしてみましょと、義弟2人とケアマネージャーさんと介護タクシーで自宅へ。内心、(自宅に着いたIさんが、やっぱり一人暮らしはきついなあと気づいて、転院を了解されるのでは・・・そうしてくれたら安心だし、転院先を早く探さなきゃ・・・)と密かに考えていたのです・・・(Iさんごめんなさい)。

しかし、自宅に着いたIさんは私たちを驚かせました。見たことのない生き生きとした表情。皺くちやでとびきりの笑顔！「いいところでしょう。」との言葉に、若いケアマネージャーさんが、「家に帰る準備をしましょう。」と言ってくれました。

急いで訪問診療、訪問看護、夜間ヘルパーを導入し、自宅退院を迎えました。初めは戸惑っていた義弟お2人も、Iさんの横で夜な夜なお酒を酌み交わしながら楽しく「見張り番」をしたとのこと。Iさんは予測を超え、退院から47日目、自宅での看取りとなりました。

・・・Iさんの『在宅緩和ケアチーム連絡帳』ヘルパーさんの記録より・・・

「私は歩けないのがわかりました。なさけないけど・・・もう歩くのはしません。

私は胃がんになって4年になります。

もう良いでしょう。病院は行きません。この家で死にたい。」とおっしゃっていました。」

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会のホームページ

<http://www.msw-oaswhs.jp/>



★編集後記★

梅雨空のもといかがお過ごしでしょうか。ジメジメしていてなかなか天気も気持ちも晴れ晴れとはいきませんが、梅雨明けももうすぐです！暑い夏に向けて体力をつけていきましょう！！

原稿を引き受けていただきありがとうございました。